令和２年度保健体育科授業充実事業

中学校保健体育科授業実践事例

球技＜バドミントン＞

群馬県教育委員会

健康体育課

1　保健体育科授業充実事業の概要

授業充実事業とは

　中学校保健体育科授業の充実を図るため、授業実践上の課題を明らかにし、課題解決のための方策等を具体化することで、教師の指導力の向上に資する。

保健体育科授業の充実

↑

教師の指導力向上

↑

研究成果のまとめ

中学校保健体育科授業の充実を図るための資料を作成

公開授業

○委員が所属する学校を「授業充実協力校」として指定

○研究の成果を県下に広めるため、授業を公開

授業研究会

○公開授業をもとに、授業充実のための方策を研究協議

○指導・講評

○情報提供

↑

授業充実検討委員会の開催

授業実践上の課題を改善するための指導の在り方について研究

２　実践事例

期　日：令和２年１０月２９日（木）
会　場：沼田市立池田中学校
単　元：体育分野　Ｅ 球技 「ネット型」 バドミントン
学　年：１年
授業者：奈良　雅裕　教諭
資　料：①学習指導案　②学習カード等　③まとめ

令和２年度授業協力校及び授業充実推進員
沼田市立池田中学校　　奈良　雅裕　教諭

令 和 ２ 年 度 授 業 充 実 検 討 委 員
野原　　亮（利根教育事務所）
冨澤　誠司（沼田市教育委員会）
小山　靖弘（健康体育課）

［参考資料］
・中学校学習指導要領解説保健体育編【文部科学省】（平成２９年７月）
・はばたく群馬の指導プラン【群馬県教育委員会】　（平成２４年３月）
・はばたく群馬の指導プラン実践の手引き　【群馬県教育委員会】
（平成２６年３月）
・はばたく群馬の指導プランⅡ【群馬県教育委員会】（令和元年８月）
・学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校偏）
【国立教育政策研究所　教育課程研究センター】（令和元年６月）
・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校　保健体育）
【国立教育政策研究所　教育課程研究センター】（令和２年３月）

保健体育科学習指導案

令和２年１０月２９日（木）第５校時
１年A組　　　場所　体育館
指導者　奈良　雅裕

授業の視点

グループごとに「タブレットＰＣ」を活用しながら、生徒主体で視点に沿った課題解決のための話合いやラリーゲームを進めたことは、より長くラリーを続けるためのポイントや自己及びグループの課題を見付けるために有効であったか。

１．単元名　　球技「ネット型」　バドミントン

２．考察

（１）生徒の実態　（ 男子９名、女子９名、計１８名 ）

【知識及び技能】

ネット型ゲームとしてバレーボールの経験はあるものの、バドミントンについては経験のない生徒が２人、また正式なネットとコートでゲームをしたことのある生徒はいない。事前アンケートでは、球技が「あまり得意ではない」「苦手」と答えた生徒が８人いる。他種目の球技の授業においても、ボールの落下地点が分からなかったり、自分との距離感が分からなかったり、ボール操作に慣れていない生徒もいた。バドミントンのルールや名称等もほとんどの生徒が分かっていない。

【思考力，判断力，表現力等】

各単元で自己やグループの課題を見付け、その課題を克服するために練習方法を選択する活動や動きのポイントを伝え合う活動を取り入れている。教師側で課題を絞ることで多くの気付きが見られたが、その表現は具体性に乏しいものが多い。事前アンケートでは、「自分から友達にアドバイスや気付いたことを伝えていますか」について「伝えている」と答えた生徒は２人、「どちらかと言えば伝えている」は１２人、「あまり伝えていない」は４人であった。また、「友達や先生からのアドバイスを自分の学習に役立てていますか」について「役立てている」と答えた生徒は１６人であった。アドバイスは役立てるが、積極的に自ら考えたり、その考えを友達に伝えたりできる生徒は少ない。グループ学習の際に具体的に発言できる生徒は、限られている。

【学びに向かう力，人間性等】

授業の準備や片付けを進んで行い、授業中も積極的に取り組むことができる生徒は、男子に多い。事前アンケートを実施したところ、「体育は好きですか」について「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた生徒は男子８人、女子９人であった。「球技は好きですか」については、「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた生徒は男子８人、女子６人であった。また、「バドミントンは好きですか」については、「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた生徒は男子８人、女子９人であった。さらに、「バドミントンの授業が楽しみですか」について「はい」と答えた生徒は男子８人、女子８人であった。アンケートからも体育への興味、関心が高いことが分かる。

しかし、バドミントンの授業について２人の生徒が不安に思っている。その理由は、「やったことがないから」「球技が苦手だから」などという意見であった。「練習したことがゲームで発揮できた時が楽しい」「チームで協力してゲームで目標が達成できたときが楽しい」という意見もあった。これらの意見を生かし、学習意欲を高めつつ、未経験の生徒もいるので、基本的なラケット操作から段階的に授業を進めていく。

（２）教材観

本単元は、学習指導要領［体育分野　Ｅ　球技　第１学年及び第２学年］の内容であり、「（1）イ　ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。」をねらいとしている。

小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習に取り組んでいる。中学校では、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるように学習していく。これらを受けて、本単元では、基本的な用具の操作や定位置に戻るなどの動きを生かし、ゲームが展開できるように学習していく。

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型から構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。その中で、ネット型に類するバドミントンは、１対１や２対２でネットを挟んで相手と向かい合い、ラケットを操作して様々

なフライトを打ち、いかに相手コートに落とすか、そして得点を重ねていくかを競い合う運動であり、攻守の切り替えが非常に速いという特徴がある。バドミントンは、いろいろなストロークを使ってラリーを続けたり、相手を惑わすフライト（緩急をつけたシャトルや相手を前後左右に揺さぶるシャトル）を打って得点を競い合ったりする楽しさがある。また、相手の特徴を分析したり、対戦した相手や自分のチームの特徴を考えたりして作戦を立てるなどの楽しさもある。これらの特徴を生かすことで、活動への興味・関心を持たせ、意欲的に運動させることができると考える。さらに、バドミントンでは、シャトルを遠くに飛ばしたり、高く打ち上げたりする中で投力を養うことに加え、ラケットを操作していろいろな打球を打ったり、相手からのいろいろな打球に応じて返球したりする中で巧緻性を養うことができる。また、空いた場所に打たれた打球を返球したり、返球後に定位置へ素早く戻ったりする中で敏捷性や瞬発力を養うこともできる。

（３）教材の系統

学年	小学校５・６年	中学校１・２年	中学校３年
領域	E　ボール運動	E　球技	E　球技
内容種目	ネット型	バドミントン	バドミントン
学習内容	・行い方を理解する ・技能を身に付け、簡易化されたゲームをする	・基本的なラケット操作、ストロークやサービス、スマッシュ ・定位置に戻るなどの動き	・安定したラケット操作 ・空いた場所を意識した攻防

３．指導方針及び学習活動への支援

・個人的な基礎技能を高めるために、単元の前半において、個人ドリルを取り入れ、繰り返し行う。（習得）
・基礎技能（個人・集団）の習得及び習熟を目的としたドリルゲームや、技術的・戦術的能力の育成を目的としたタスクゲームを、ねらいに合わせて効果的に取り入れていく。また、ペアやグループで互いの動きや作戦などを評価し、伝え合う場面を作り、それを生かして練習に取り組ませる。
・未経験者がいることなどから、スモールステップを取り入れた段階的な練習やルールを簡略化したメインゲームなどの工夫をして、楽しみながらバドミントンの特性を十分に味わえるようにする。
・練習はグループで進めていく。編成については、スキルテスト等を参考にしながら、各グループの技能レベルが同じになるようにし、男女混合で４グループ編成する。
・具体的に課題を見付け、練習方法が考えられるように、学習カードや掲示物を工夫する。
・うまくできたり、ミスをしたりしても友達同士やグループ内で声をかけ合い、協力する雰囲気をつくる。
・生徒が成長を実感し、学習したことを次時につなげるために、単元を通して学習の内容や振り返りが記入できるように学習カードを工夫する。
・技能習得のためにＩＣＴ機器を取り入れ、効果的に自分自身やグループの動きを確認できるようにする。
・各グループ１台のタブレットを用いて動画を見ながら、技能のポイントや課題等を伝え合えるようにする。
【新型コロナウイルス感染症予防対策について】
・体育館に入る前と出る際に、手指の消毒をする。道具に関しては、使用後教員が消毒をする。
・密を避けるために、整列や話合いの際はお互い両手を広げてぶつからない程度の間隔は空けさせる。
・接触等を避けるために、シングルスのゲームを行い、ダブルスは行わない。

４．授業中における生徒指導

【多面的な生徒理解】
　学習カードや話合い、活動の様子から生徒の多面的な理解に努める。
【自己存在感や自己決定の場を与える工夫】
　生徒の活動に対して優れている考えや積極的な取組を称賛するようにし、自己存在感を持たせるようにする。
【共感的な理解ができる学級の雰囲気作り】
　仲間と協力してお互いの意見を出し合い、教え合い、よさを認め合える雰囲気づくりに努める。

５．指導と評価の計画（全７時間予定　本時は第４時）

単元の目標	知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性（や成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア　ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。

	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取組方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	（積極的に取り組むとともに、）（フェアなプレイを守ろうとすること、）（作戦などについての話合いに参加しようとすること）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、）仲間の学習を援助しようとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

過程	時間	主な学習活動	知	技	思	態	◇評価方法
つかむ	1	学習の流れを理解するとともに、自分のスキルを確認したり、基本のラケット操作の活動をしたりして、今後の学習に対する意欲を高める。 ・単元の見通し　・基本のラケット操作 ・スキルチェックテスト	①			②	学習カード 観察
追究する	2	示範の映像や掲示物から、上達のための技能ポイントについて理解し、練習する。 ・サービス練習 ・サービスゲーム	②			①	学習カード 観察
	3	示範の映像や掲示物から、上達のための技能ポイントについて理解し、練習する。 ・ストローク ・ラリーゲーム	②	①			学習カード 観察
	4	自己やグループの課題やラリーを続けるためのポイントを見付ける。 ・ラリーゲーム ・課題把握、伝え合い			②		学習カード 観察
	5	空いた場所をめぐる攻防をするためのポイントやグループの課題を見付け、それを仲間同士で伝える。 ・定位置に戻る ・スマッシュ		②	①		学習カード 観察
まとめ	6	これまでの学習で身に付けた技能を生かしながら、男女別リーグ戦をおこなう。 ・シングルスゲームⅠ		③			学習カード 観察
	7	これまでの学習で身に付けた技能を生かしながら、男女別リーグ戦をおこなう。 ・シングルスゲームⅡ　　・単元のまとめ	総括的な評価				学習カード 観察
単元の評価規準	知	① 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ② 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。					
	技	① シャトルをラケットの中心付近でとらえ、返す方向に面を向けて打つことができる。 ② 相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。 ③ 相手側のコートの空いた場所にシャトルを返すことができる。					
	思	① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ② 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、グループへの関わり方を見付けている。					
	態	① 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ② 健康・安全に留意している。					

６．本時の学習　（４／７時間目）

（１）ねらい

ラリーゲームや話合いを通して、ラリーを続けるためのポイントや自己やグループの課題を見付けることができるようにする。

（２）準備

テレビ、タブレットPC、デジタイマー、ラケット、シャトル、支柱、ネット、学習カード、掲示物

（３）展開

<table>
<tr><th>過程
(時間)</th><th>主な学習活動</th><th>指導上の留意点及び支援</th></tr>
<tr><td rowspan="2">つかむ

(10分)</td><td>1．ランニング、準備体操
【ドリル練習】
・フットワーク
・ネットなしラリー
2．集合、あいさつ、めあての確認</td><td>・準備体操はグループごとに行う。
・ドリル練習は毎時間実施しているものと本時の動きにつながるものを取り入れる。
・課題意識が持てるようにタブレットPC、テレビ画面を使用して前時までの様子を振り返る。
・本時の学習の進め方を提示し、生徒自ら進んで活動できるようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">めあて：【ラケットの面】【シャトルの軌道】【受手の動き】に注目して、
より長くラリーを続けるためのポイントを見付けよう。</td></tr>
<tr><td>追究する①
(20分)</td><td>3．課題を見付けるためのラリーゲームⅠ
・グループで３分ごとに交代する。
（３分×３）
・２人がラリー、１人が撮影、１人もしくは２人がラリーを観察する。

4．グループでの話合い
【視点】より長くラリーを続けるためにはどうすればよいのか。

【予想される生徒の反応】
① シャトルを高く打ち上げる
② 相手がいる所に打つ
③ 素早く落下地点に移動する
④ 意見が出せない</td><td>・円滑に交代できるように事前に順番を決めておく。
・タブレットPCで撮影し、自分たちの動きを確認しながら話合いができるようにする。
・観察者は気付いたつまずき、課題を付箋紙に書き、活用しながら話合いができるようにする。
・話合いはリーダーが進行を務め、時間内に終わりにできるようにタイマーを活用する。
・学習カードには「ラケット」「シャトルの軌道」「受ける人の動き」など観察する視点ごとに記入できるようにしておく。

【具体的な指導や支援】
①② そのように打つためには、ラケット操作や体の使い方はどうすればよいのか確認させる。
③ 素早く移動するためには、コートのどこにいるのが効率的か考えさせる。
④ 長くラリーが続いている動画を見せ、比較させる。</td></tr>
<tr><td>追究する②
(10分)</td><td>5．話合いを生かしたラリーゲームⅡ
・グループで３分ごとに交代する。
・２人がコートを使用してのラリー、２人もしくは３人がコート外でラリーをし、何回続けることができるか挑戦する。</td><td>・話合いで明らかになった課題や解決策を意識してゲームをさせる。
・違いが比較できるようにタブレットPCで撮影する。
・ゲームの中での生徒のよい動きを積極的に見取り、称賛していくことで、話合いの成果を実感できるようにする。</td></tr>
<tr><td>まとめる
(10分)</td><td>6．振り返り
【振り返り】
・ポイントを見付けることができた。
・ラケット面の真ん中でシャトルを打つ、面は返す方向に向ける。
・コートの真ん中付近にいて落下地点にすばやく入る。
7．まとめ
【視点】より長くラリーを続けるためのポイントはなにか。</td><td>・学習カードに本時の振り返りを記入させる。
・本時のめあてに対して考えたことや取り組んだことなどに視点を当てて振り返りができるようにする。
・取組のよさを称賛する。
・ラリーゲームの様子をタブレットPCで撮影しておいたものを生徒に見せながら全体で動きの確認をする。
・生徒の発言等から次時のめあてにつなげる。</td></tr>
</table>

【評価項目】＜思考・判断・表現 ＞（ 観察、学習カード）

〇おおむね満足　　ラリーを続けるためのポイントを見付けることができる。

◎十分満足　　　　ラリーを続けるためのポイントを見付け、話合いやゲームで伝えている。

バドミントン学習カード

本時のめあて

【ラケットの面】【シャトルの軌道】【受手の動き】に注目して、
より長くラリーを続けるためのポイントを見付けよう！！

グループ名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

視点	つまずき・課題
【ラケットの面】	
【シャトルの軌道】	
【受手、相手の動き】	

視点	解決策・ラリーを続けるポイント
【ラケットの面】	
【シャトルの軌道】	
【受手、相手の動き】	

バドミントン学習カード　　NO. 1

１年Ａ組＿＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

単元目標

基本的なラケット操作を身につけよう！！
空いた場所をめぐる攻防を展開しよう！！

バドミントンの学習		
時間	**学習のめあて**	**学習活動**
1	○必要な用語や特性を理解し、学習の進め方を確認しよう。 ○スキルテストを通して、自分自身の技能を知ろう。	・オリエンテーション ・シャトル・ラケット遊び ・個人技能のスキルチェックテスト
2	○サービスの技能ポイントをおさえて狙ったところに打てるようにしよう。	・サービス（ロング、ショート） ・サービスゲーム
3	○ストロークの技能ポイントをおさえて、狙ったところに打ち返そう。	・ストローク（アンダー、オバー） ・クリアー、ロブ ・ラリーゲーム
4	○より長くラリーを続けるためのポイントを見付けよう。	・ラリーゲーム ・課題把握、伝え合い
5	○空いた場所を利用するためのポイントや課題を仲間同士、伝え合おう。	・定位置に戻る動き、伝え合い ・スマッシュ
6 7	○これまで身に付けた技能を活かし、ゲームを楽しもう。	・シングルスゲーム ・審判方法を確認し、スムーズにゲーム進行を行う ・まとめのリーグ戦 ・個人技能のスキルチェックテスト

バドミントン学習カード　NO. 2

１年Ａ組＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿

本時のめあて

〇必要な用語や特性を理解し、学習の進め方を確認しよう。

種目	記録
・シャトル連続打上げ（３０秒）フォア面	回　（点）
・シャトル連続打上げ（３０秒）バック面	回　（点）
・２人組ラリー（３０秒）	回　（点）
・サービス（５本中）	本　（点）
合計	点

☆今の自己の課題を見つけ、できるようになりたいことを書こう☆

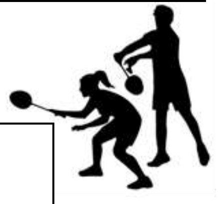
【「サービスは腰より下から」という説明を表したイラストを掲載】

【「基本姿勢・構え方」の写真を掲載】

【「ラケットの持ち方」の写真を掲載】

バドミントン学習カード　　NO. 3

１年Ａ組＿＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿



参考資料

共通事項

① ラケットの面を打ちたい方向へむける

② ラケットの面の真ん中でシャトルをとらえ

【「フォアハンドサービス（ショート）」の連続写真を掲載】

面を前に押し出す

【「フォアハンドサービス（ロング）」の連続写真を掲載】

前脚のつま先延長線上あたりに落とすと当てやすい

逆肩へ振り抜く

【「バックハンドサービス」の連続写真を掲載】

利き手側の脚を前に出す

面を前に押し出す

【「アンダーハンドストローク（フォアハンド）」
の連続写真を掲載】

【「アンダーハンドストローク（バックハンド）」
の連続写真を掲載】

**利き手側の脚を前
に出す**

**腰から低い打球を
拾い上げる**

**高い位置、
頭より前でとらえる**

**弓矢のように肩甲
骨をよせて引く**

【「オーバーヘッドストローク」の連続写真を掲載】

【「クリアー、ロブ、スマッシュ、ドロップ、ドライブ、
ヘアピンの軌道の違い」を説明したイラストを掲載】

（ネット型） バドミントン振り返りカード

１年＿＿＿＿＿番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

①	**今日の学習課題** ○学習の流れを理解し、自分のスキルを確認しよう！！			
／	○意欲的に取り組めた	A　B　C	**振り返り**	**先生から**
	○あいさつ・号令を大きな声で言えた	A　B　C		
	○準備・片付けができた	A　B　C		
	○学習課題を意識してできた	A　B　C		
	○伝え合うことができた	A　B　C		
②	**今日の学習課題** ○ポイントをおさえて、狙った所へサービスを打とう！！			
／	○意欲的に取り組めた	A　B　C	**振り返り**	**先生から**
	○あいさつ・号令を大きな声で言えた	A　B　C		
	○準備・片付けができた	A　B　C		
	○学習課題を意識してできた	A　B　C		
	○伝え合うことができた	A　B　C		
③	**今日の学習課題** ○ポイントをおさえて、狙った所へストロークで打とう！！			
／	○意欲的に取り組めた	A　B　C	**振り返り**	**先生から**
	○あいさつ・号令を大きな声で言えた	A　B　C		
	○準備・片付けができた	A　B　C		
	○学習課題を意識してできた	A　B　C		
	○伝え合うことができた	A　B　C		
④	**今日の学習課題** ○より長くラリーを続けるためのポイントを見付けよう！！			
／	○意欲的に取り組めた	A　B　C	**振り返り**	**先生から**
	○あいさつ・号令を大きな声で言えた	A　B　C		
	○準備・片付けができた	A　B　C		
	○学習課題を意識してできた	A　B　C		
	○伝え合うことができた	A　B　C		
⑤	**今日の学習課題** ○空いた場所を利用するためのポイントや課題を伝え合おう！！			
／	○意欲的に取り組めた	A　B　C	**振り返り**	**先生から**
	○あいさつ・号令を大きな声で言えた	A　B　C		
	○準備・片付けができた	A　B　C		
	○学習課題を意識してできた	A　B　C		
	○伝え合うことができた	A　B　C		

⑥	**今日の学習課題** 〇フェアプレイでゲームをしよう！！			
	〇意欲的に取り組めた	A　B　C	**振り返り**	**先生から**
／	〇あいさつ・号令を大きな声で言えた	A　B　C		
	〇準備・片付けができた	A　B　C		
	〇学習課題を意識してできた	A　B　C		
	〇伝え合うことができた	A　B　C		
⑦	**今日の学習課題** 〇フェアプレイでゲームをしよう！！			
	〇意欲的に取り組めた	A　B　C	**振り返り**	**先生から**
／	〇あいさつ・号令を大きな声で言えた	A　B　C		
	〇準備・片付けができた	A　B　C		
	〇学習課題を意識してできた	A　B　C		
	〇伝え合うことができた	A　B　C		
	今日の学習課題			
	〇意欲的に取り組めた	A　B　C	**振り返り**	**先生から**
／	〇あいさつ・号令を大きな声で言えた	A　B　C		
	〇準備・片付けができた	A　B　C		
	〇学習課題を意識してできた	A　B　C		
	〇伝え合うことができた	A　B　C		
	今日の学習課題			
	〇意欲的に取り組めた	A　B　C	**振り返り**	**先生から**
／	〇あいさつ・号令を大きな声で言えた	A　B　C		
	〇準備・片付けができた	A　B　C		
	〇学習課題を意識してできた	A　B　C		
	〇伝え合うことができた	A　B　C		
	今日の学習課題			
	〇意欲的に取り組めた	A　B　C	**振り返り**	**先生から**
／	〇あいさつ・号令を大きな声で言えた	A　B　C		
	〇準備・片付けができた	A　B　C		
	〇学習課題を意識してできた	A　B　C		
	〇伝え合うことができた	A　B　C		

■まとめ

１　授業づくりにあたって（授業構想）

バドミントンの授業を構想するにあたり、次の３項目を重点とした。

（１）シャトルをラケットの中心付近でとらえ、返す方向に面を向けて打つことができること。
（２）ＩＣＴ機器を用いて、自分自身やグループの動きを確認し、課題を見付け、他者に伝えること。
（３）仲間と互いに練習の援助を行い、積極的にバドミントンに取り組むこと。

（１）について、事前アンケートにおいて、学級の約半数の生徒は、球技を「あまり得意ではない」「苦手」と答えていた。また、ネット型ゲームとしてバレーボールの経験はあるものの、バドミントンについては未経験の生徒もいて、どちらも正式なネットとコートでゲームをしたことのある生徒はいなかった。さらに、他種目の球技の授業においても、「ボールの落下地点を正しく把握できない」「ボールと自分との距離感が分からない」「ボール操作に慣れていない」等の様子が見られた。これらのことから、バドミントンでは、ラケットの面までの距離感がつかめず、ラケットでシャトルを正確に捉えることが難しい生徒が出てくることが予想できた。そこで、本単元では、個人的基礎技能を高めるために、単元の前半において、個人ドリルを取り入れ、繰り返し行った。その際、スモールステップを取り入れた段階的な練習やルールを簡略化したメインゲームなどの工夫を取り入れ、楽しみながらバドミントンの特性を十分に味わえるようにした。また、音楽を使ってフットワークトレーニングを行い、アップテンポなリズムに乗りながら動けるように工夫した。

（２）について、これまでの授業では、教師から意図的に問うことで、ポイントや課題を見付けることができた。しかし、話合いの場面での生徒の意見は具体性に乏しいものが多く、積極的に自ら考えたり、その考えを友達に伝えたりできる生徒は少ない傾向にあった。また、運動を得意としている生徒の考えがグループの考えになる傾向があり、運動を苦手としている生徒の意見が話合いに生かされていなかったり、意見が出せなかったりする様子も見られた。事前アンケートでは、友達や教師からのアドバイスを自分の学習に役立ててはいるが、自分から伝えることはできていないと答えている生徒も多かった。そこで、ＩＣＴ機器（タブレットＰＣ）を用いて互いの運動の様子を撮影し、手本と比較できるようにすることで、自他の課題が見付けやすくなるようにした。さらに、動画を用いて、動きを確認しながら具体的に伝え合えるように工夫した。これらにより、話合いをより活性化させることで、技能の向上につなげたいと考えた。

（３）について、事前アンケートから「練習したことがゲームで発揮できた時が楽しい」「チームで協力してゲームで目標が達成できたときが楽しい」という意見があったので、生徒にとっては達成感を味わえることが大切であり、積極性にもつながるということが分かった。バドミントンの授業について不安に思っている生徒もいたので、基本的なラケット操作から段階的に授業を進めていき、互いに声を掛け合いながら技能を高め合っていけるような授業づくりに努めた。

２　授業研究会より（〇：よかった点　　●：課題及び改善点）

（１）　生徒への関わり方

〇 個に応じた支援が充実していた。ワークシートに先生のコメントが書いてあり、生徒の意欲につながっていた。
〇 生徒に対してシンプルでわかりやすい説明であった。
● ミニゲームにおいて、ねらいの理解が不十分な生徒に対して支援があるとよかった。

（２）　めあての提示設定、授業の見通し

〇 めあての提示は、見通しを持てる設定になっていた。

○ めあてや課題設定は、生徒の実態に合っていた。授業が構造化されていて、生徒が無駄なく動いていた。
○ ワークシートに学習目標が書いてあり、単元を通して見通しが持てるようになっていた。
● 本時のめあての他に、個人のめあてを記入させることで、より充実した練習への取組になるのではないか。

（３） 指導の工夫
○ 音楽を使い、フットワークをトレーニングしていたドリル練習がよかった。
○ ＩＣＴを活用し、前回の振り返り活動を行ったり、３年生の動きの見本を見せたりすることで、課題を見付けやすくしていた。
○ タブレットの使用は、自分の姿をすぐに確認でき、ラリーの失敗の原因、課題を見付けることに役立っていた。
● 動画を撮る位置が班によりバラバラであったので、統一した方が比較しやすい。
● タブレットを見ながら話し合うことが難しそうな班もあった。

（４） 発問・板書の工夫
○ 「どうして」「なぜ」等、生徒自身に考えさせる発問が多かった。
○ 生徒のつぶやきを拾い、授業がテンポよく進められていた。
● 掲示資料の中に分かりやすい見本があったので、もっと活用してもよかったのではないか。

（５） 授業計画、指導内容
○ 運動量が確保されていた。
○ 生徒の実態を複数の視点から詳しく捉えた的確な実態把握が、指導方針や学習活動の支援等に具体的に反映されていた。
○ 動画や実技資料を活用し、動きの視点を見付けさせてから、ラリーゲームでタブレットを使い、自分や仲間との動きを比較して、視点をもとに課題を見付ける構成であった。
● 撮影時間をもう少し短くし、話合いをさらに充実できるとよかった。
● 「ラケットの面」等の視点があることはとても重要であるが、「体の使い方」についての視点があってもよかった。

（６） 伝え合いの様子
○ グループ学習で、見るポイントが明確化されていた。
○ 生徒主体で課題解決のための話合いを大切にしている。タブレットを活用し、視点を与え、見合うポイントや話し合う内容を焦点化するなど、工夫されていた。
○ ワークシートやグループの付箋について、気付きを整理して可視化でき、次時にも残るので有効であった。
● 班で話し合った内容を全体で共有してもよかったのではないか。
● ラリーを続けるためのヒントや技能ポイントなどが用意されていると話合いが活発になるのではないか。

（７） 生徒の様子
○ 振り返りで、具体的なポイントを生徒が見付けていた。意図的な指名の発表により、周りの生徒が気付いていない点について、共有できていた。
○ 観察する視点に従って各グループしっかり観察できていて、生徒がよく考えていた。
● 「中央に戻るというポイント」を意識する生徒が少なかった。
● 振り返りで、ラリーを続けるポイントを記入することに加え、自己の課題を記入できると、次時のめあてとなるのではないか。

３　生徒の変容

【知識・技能】

・本時以降の授業で「打った後に真ん中に戻って次のフライトに備える」「狙う方向にラケットの面を向ける」ことを意識して打つことができる生徒が増えた。

・フライトがずれても拾って返せる生徒が増えた。

・相手が打ちやすい位置を狙い、シャトルを捉えるときに狙った方向にラケットの面を向けようとする生徒が増えた。

・単元当初と後半に実施したスキルテスト（１分間のラリー数）の結果を比較すると、６７％の生徒は記録を向上させることができた。記録を２２回向上させたペアもいた。

＜記録が上がったペアの回数の変化＞

	当初	後半	向上値
Ａペア	6	7	1
Ｂペア	5	13	8
Ｃペア	10	29	19
Ｄペア	5	27	22
Ｅペア	7	20	13
Ｆペア	6	13	7

【思考・判断・表現】

・タブレットで自分たちの姿を確認できたので、その後も手本の映像と比較してみたり、グループでアドバイスしたりすることができるようになった。

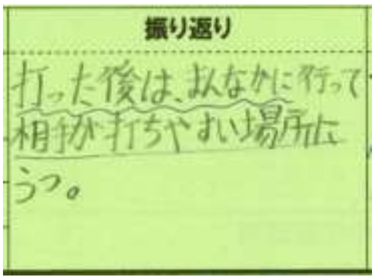
・「打った後は真ん中に戻る」や「狙う方向にラケットの面を向ける」などは見ていて分かりやすく、その後の授業でも自然とアドバイスし合うことができていた。

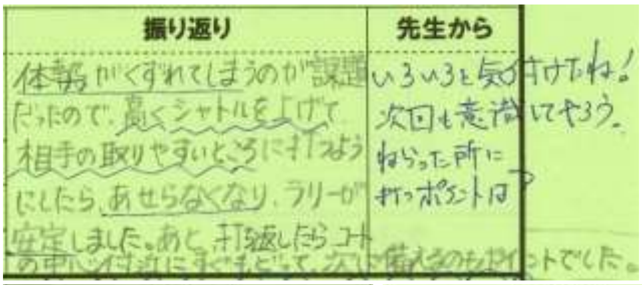
【主体的に学習に取り組む態度】

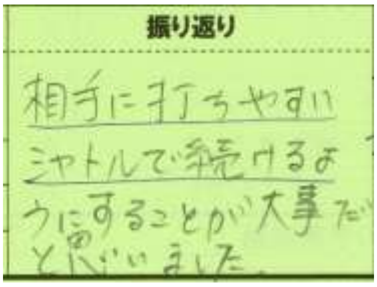
・タブレットを見ながら確認できたので、普段、話合いに消極的な生徒も課題を見付けることに関わることができた。

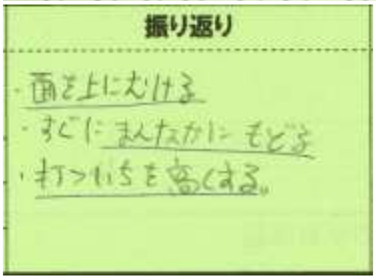
・ラリーを続けるポイントが分かり、続くようになってきたことで、単元前のアンケートで「バドミントンの授業が不安」と答えていた生徒も技能を高めようと積極的に取り組むことができるようになった。

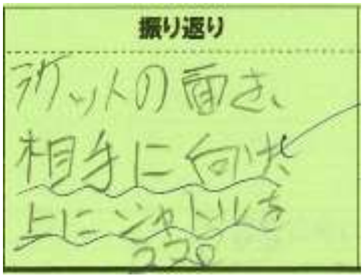
４　授業後の生徒の感想等











５　成果と課題

（１）　成果

【知識・技能】

・単元を通して、リズムに乗りながら動けるようにアップテンポな音楽を使ってフットワークトレーニングを行ったことは、バドミントンの特性でもある素早い動きを身に付けることにつながった。

・タブレットを用いて、互いの動きを確認し、手本の動きと比較したことは、限られた時間の中でストロークを身に付けることに有効な手立てであった。また、多くの生徒がラリーを長く続けることができるようになった。

・ラリーが続くようになったことで、そこからゲーム性へと発展させることができ、空いた場所をめぐる攻防につながった。

【思考・判断・表現】

・タブレットを使い、自分や仲間との動きを比較したことは、提示した視点をもとに課題を見付けることにつながった。

・タブレットは撮影や再生、コマ送り、スロー、巻き戻し、静止など必要に応じて簡単に操作することができるので、生徒は視点に焦点をあて、課題を見付けるための有効な手立てとなった。

【主体的に学習に取り組む態度】

・ラリーを続けるためのポイントを見付けて練習することは、バドミントンの授業が不安と感じていた生徒にとっても楽しみながら取り組むことができ、積極性にもつながった。

・フットワークトレーニングの際に音楽をかけたことは、生徒の意欲を高め、積極的に取り組むことにもつながった。

（２）　課題

【知識・技能】

・シャトルを捉える際、狙った所へ打つためにラケットの面を狙った方向へ向けるというポイントを意識させたが、その意識が強くなりすぎてしまい、ラケットを振り抜くより押し出す生徒が増えてしまった。視点の中に「体の使い方」があってもよかった。

・打った後、真ん中に戻るということは、空いた場所をめぐる攻防につなげるためにも必要なことであり、全員に意識してほしかったが、意識できている生徒は少なかった。声かけ等で支援していく必要があった。

【思考・判断・表現】

・ポイントを見付けることにタブレットを用いたが、話合いをより充実させたり、技能をより高めたりするためにも、手本の動画や実技資料等からポイントを見付けてから、ラリーゲームでの自分たちの姿を撮影して、課題を見付けるという構成も考えられた。

・話合いを円滑に進め、充実させるためにも、視点によって撮影する位置を工夫し、撮影の仕方を統一することが必要であった。

【主体的に学習に取り組む態度】

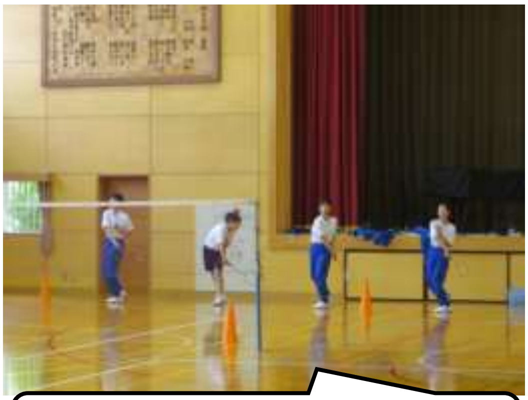
・話合い活動に消極的な生徒への支援として、ポイントを見付けるためのヒントカードなどを個人もしくはグループに用意しておくことが必要であった。

・苦手としている生徒に対して支援するために、さらなる教材の工夫や指導計画の見直しが必要である。

６　授業の様子

① 音楽を使ったフットワーク

素早い動きでコーンにタッチ！



リズムに合わせてスイング！

② 本時のめあての確認

ラリーを続けるポイントは何だろう？

ラリーが続くとゲームのおもしろさが出てくるよね！

３年生が長くラリーを続けていられるのはなぜだろう？みんなとの違いは？

③ ラリーゲームの様子をタブレットで録画

「ラケットの面」はどこに向ければいいのかな？

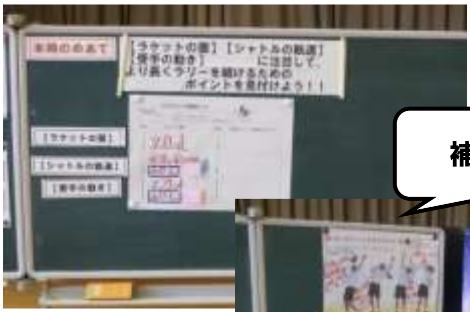
受け手はどういう動きをすればラリーが続くのかな？

④ グループでの話合い

シャトルを高く上げると余裕ができてラリーが続けやすいかも。

打った後、真ん中に戻れるときは次の打球にちゃんと対応できているよ。

狙った所に打てた時はラケットの面がどこを向いているかな？



補助資料

⑤ 振り返り

より長くラリーを続けるためのポイントを見付けることはできたかな？

打った後は真ん中に戻って、相手が打ちやすい場所に打つことを意識すると長く続けることができました。